



図1 選挙権を持っていたか。



図2 投票へ行ったか。

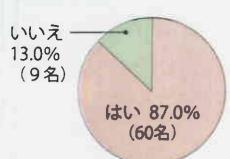
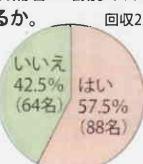


図3 投票先の決め方。



図4 立候補者の名前を知っているか。



**電気代は家庭の50倍**

H27年度 月別電気代と冷暖房費  
(単位:円)

使用月	電気代	冷暖房費
4月	693,514	145,981
5月	592,210	0
6月	571,181	0
7月	528,461	81,663
8月	551,160	143,652
9月	539,857	31,909
10月	506,681	0
11月	560,861	204,794
12月	612,891	511,612
1月	705,297	623,258
2月	785,945	684,630
3月	658,571	341,502
年間合計	7,306,629	2,769,001
冷 房 費	257,224	
暖 房 費	2,511,777	

**節約を心掛けよう**

この夏は例年以上に「暑い夏」となったが、学校の冷房、暖房は実際どのくらいの経費がかかっているのだろうか。表を見ると、一年間の電気代は七百三十万六千六百二十九円。一般家庭の(四人家族)の平均が約十四万円だから、たとえば誰もしない教室の電灯が全点灯、エアコンがフル稼働されていることを見られる。教室を空けるときに

この夏は例年以上に「暑い夏」となったが、学校の冷房、暖房は実際どのくらいの経費がかかっているのだろうか。表を見ると、一年間の電気代は七百三十万六千六百二十九円。一般家庭の(四人家族)の平均が約十四万円だから、たとえば誰もしない教室の電灯が全点灯、エアコンがフル稼働されていることを見られる。教室を空けるときに

七月十日に行われた参議院議員選挙において選挙権を持つていた生徒の投票率が八七%であったことが三年生を対象としたアンケートによって判明した。(回収三三名)

今回が十八歳選挙権の初めての選挙であったことや選挙前に行われた主権者教育、マスメディアによる十八歳選挙権の特徴などが高い投票率になった主な原因と考えられる。

昨年六月に可決された改正公職選挙法により十八歳以上以上の男女に選挙権が与えられることが決まった。七月十日投票には誕生日を迎えた人に十八歳選挙権が与えられた。

能代高校の三年生のうち今回の選挙で選挙権を持つている男女は六十九名(図1)そのうち六十人が実際に投票を行ったと回答し、投票率は八七%に上った。(図2)総務省の調査によると全国の十八歳の投票率は五・一七%どなつており、能代高校の投票率は

率は全國を大きく上回った。能代高校では一学期中に主権者教育を全校で行い、生徒は若い世代が投票することの必要性を説く、またマスメディアの十八歳選挙権についての特集などが生徒の意識に大きく影響したと考えられる。

選挙権を持つた生徒は今回の選挙で選挙権を持つていない。その生徒を対象に「今回の選挙の立候補者の名前を一人でも知っているか」という質問をすると六割近くの生徒が「はい」と回答した。周りの選挙権を持つた生徒に刺激を受けて今回の選挙に間に心を持つことがうかがえる。(図4)

今回の選挙では能代高校生の選挙に対する主体的な姿勢が見られた。しかし、それが導入初年度の今回だけで終わるでは意味がない。今後行われる選挙でも層「若者の意見を政治に反映させる」という強い意志を持つことが必要だ。

そこで、「平和」という観点から「これから私の私物ができる」とについて述べる。毎日、九月の追憶の日六月一日、九月の追憶の日六月一日、九月の追憶の日六月一日の平和式典について、皆

さらにこの夏、私たち新規に参加し、広島の地に直接赴くことで、戦争に関する学びをより深めた。

そこで、「平和」という観点から「これから私の私物ができる」とについて述べる。毎日、九月の追憶の日六月一日、九月の追憶の日六月一日の平和式典について、皆

今年は、戦後七十二年となるが、オバマ米大統領の来事があった。核兵器を廃するメッセージが全世界に向けて発せられ、恒久和平を願う広島の心を共有してきた。

さんは何を感じただろうか。

広島県平和記念公園の原爆資料館で生き残った過去の記録を直接見てきた。一、二年生は修学旅行で広島の地を訪れるはずだ。ぜひ、原爆資料館を自身の目でじっくりと見

かわらなければならぬ世代

の悲惨を再確認するとともに、今の平和について知る、伝えることにもっと積極的にかわらなければならない世代

たちが現実から目をそらさないでほしいために、今は私たちが現実から目をそらさないでほしいのだ。

これが生きる者の務めではないか。

タクシーの運転手さん

と話していたことが印象的だった。原爆資料館では、多くの外国人、若者、家族連れがみかけた観光地ではない広島を訪れる意味を

自分に問い合わせてみたい。

二〇一二年には「平和の祭典」オリンピックが東京で開催される。「平和」を絶やさないためにも、私

たち高校生は、「これから

の私たちができる」とい

うことを向けていかなくては

ならない。

〔佐佐木

説

## 今後の課題

### 選挙権を

### 持たない生徒

### 選

